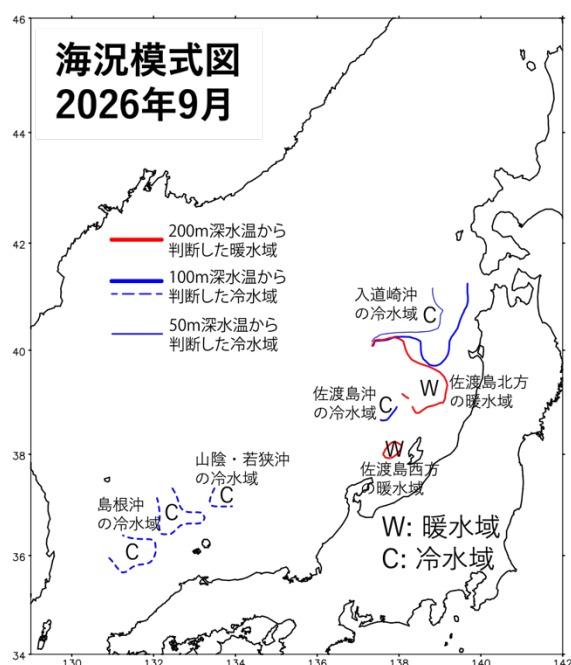


2026年10月6日
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2026年度 第3回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2026年10月中旬～12月)のポイント



(註) 用語の定義は以下のとおり。

“はなはだ”：出現確率約22年に1回、“かなり”：出現確率約7年に1回

“やや”：出現確率約3年に1回、“平年並み”：出現確率約2年に1回

- 佐渡島北方・西方の暖水域は合流して西進し、能登半島北方に分布する。能登半島北東に暖水域が出現する。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、規模・接岸距離ともに平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。対馬暖流域の表面水温は、“かなり高め”で経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、“かなり高め”で経過する。
- 対馬暖流域の水深50m水温は、日本海西部、北部ともに“かなり高め”で経過する。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：海洋環境部（新潟） 西内、和川

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

2026年度 第3回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2026年10月中旬～12月）

- (1) 佐渡島北方・西方の暖水域は合流して西進し、能登半島北方に分布する。能登半島北東に暖水域が出現する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、規模・接岸距離ともに平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。対馬暖流域の表面水温は、“かなり高め”で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“かなり高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部、北部ともに“かなり高め”で経過する。

2. 経過（(1)は2026年6月～9月、(2)～(3)は2026年6月～8月、(4)は2026年6月）

- (1) 6月に隠岐島東方に出現した暖水域は、8月に西進し、9月に消滅。6月に能登半島北東に分布していた暖水域は7月に南下し、6月に佐渡島西方に分布していて7月に北上した暖水域と合流し、佐渡島北西に分布。この佐渡島北西の暖水域はさらに、6月に富山湾に出現して7月と8月にやや北上した暖水域と9月に合流し、佐渡島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、6月はかなり小さくやや離岸、7月は規模・接岸距離ともに平年並み、8月はかなり小さく接岸距離は平年並み、山陰・若狭沖の冷水域は、6月はやや大きくやや接岸、7月は規模は平年並みでやや接岸、8月はやや小さくやや離岸、佐渡島沖の冷水域は、6月から8月までやや小さくやや離岸、入道埼沖の冷水域は、6月から8月まで規模・接岸距離ともに平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、6月は島根沿岸～隠岐島西方で“はなはだ高め”、鳥取沿岸、若狭湾、能登半島西岸～富山湾、佐渡島北東、渡島半島西方、石狩湾～利尻島西方で“かなり高め”、佐渡島北岸で“やや低め”、秋田沿岸～西方で“かなり低め”以外はおおむね“平年並み”～“やや高め”、7月は大和堆、糸魚川沿岸、佐渡島北東、男鹿半島沿岸で“はなはだ高め”、山口北方、能登半島北西で“かなり高め”、若狭湾北方、道北西方で“やや低め”、鳥取北方、渡島半島西方で“かなり低め”以外はおおむね“平年並み”～“やや高め”、8月は山口～石川沿岸～北方、北海道沿岸～西方で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外はおおむね“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、西部・北部ともに“やや高め”。

3. 現況（2026年9月）

- (1) 暖水域は、佐渡島北方・西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は規模・接岸距離ともに平年並み、山陰・若狭沖の冷水域はかなり小さくやや離岸、佐渡島沖と入道埼沖の冷水域はともにやや小さく接岸距離は平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、山口～新潟沿岸～北方、青森沿岸～西方で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外はおおむね“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、西部・北部ともに“やや高め”。

（註）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した FRA-ROMS II システムを主に用いて実施し、気象庁による北陸地方の気温の3か月予報（4月～6月）も参考にした。

引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| “はなはだ高め（低め）” | : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ） |
| “かなり高め（低め）” | : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ） |
| “やや高め（低め）” | : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ） |
| “平年並み” | : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所